

令和 7 年度学校関係者評価委員会による報告書

はじめに

本報告書は「世田谷区立小・中学校 学校評価システム」に基づき、令和 7 年度における学校関係者評価委員会の活動および評価結果についてまとめたものです。本委員会は、学校運営の透明性と信頼性を高め、教育活動の質の向上を図ることを目的として設置されています。評価を通じて学校の現状分析と課題抽出、今後の改善策の提案を行いました。なお、アンケート結果（全体の数値）は、本校のホームページに掲載されますので、そちらも併せてご参照ください。

1. 評価の目的と方法

評価の目的は、学校の教育活動や運営状況について多角的に評価し、学校の自己評価を補完するとともに、地域社会や保護者との連携強化を図ることです。主な評価方法は以下の通りです。

- 学校自己評価報告書の確認
- 授業・学校行事の参観
- 委員会における教職員・地域委員及び保護者委員からのヒアリング
- アンケート調査結果の検証

2. 評価の主な内容

[全体総括]

本年度も例年に引き続き、生徒・保護者・地域いずれもほとんどの項目で肯定的回答（とても思う・思う）が多く、否定的回答（あまり思わない・思わない）が目立つ項目も見られませんでした。学校運営の安定した様子が、結果からも見受けられます。

本校の改築工事は本年度より本格化しています。校庭も狭くなり、二学期からはプレハブの仮校舎に主な教室が移りました。そのような中でも、授業や学校行事への肯定評価は昨年度同様約 9 割と大変高い数値でした。特に行事への達成感を生徒の 95.6%、保護者の 92.4%が「ある」と回答していることは、教職員による日々の工夫の結果であると高く評価いたします。

地域回答では、情報発信による学校運営への理解が高く、地域活動との積極的な関わり

について高く評価されています。学校運営の透明性が増し、地域との連携が進むことは、地域全体の良さにも繋がることで、大変望ましいことであると評価されます。

[重点目標に対する達成状況について]

本校で掲げている教育目標「優しさいっぱい弦巻中/優心・優考・優健」について、アンケート結果より考察いたします。

本年度は、ICT 活用の推進や探究的な学びに向けた学習の充実が図られ、「キャリアサポート」の活用による多様な教育活動が実践されていました。様々な機会を設けて「優しく思いやること」について自ら考えること、多様な価値観への共感、豊かな心の育みに重きを置いた教育活動が実践されていたと高く評価されます。

健康管理や体力向上の大切さも学びとして考え、身につくまでの導きとして、本物体験授業等も行われていました。

設問単体で見ると、例年他の設問より肯定評価が低い傾向にあるボランティアの有無ですが、授業や活動の中では、地域を知り役割を持って社会と接する大切さを教えることに力を入れられており、ボランティアをきっかけに、生徒が地域で自発的に行動する様子も見られました。「優しさいっぱい」の精神は、学校生活そして家庭生活両面での日頃の積み上げにより、しっかりと体現されていると評価されます。

[定点比較]

本委員会では、本アンケートの意義として、生徒が学校生活について実感を持つこと、学校運営が保護者や地域の方に、関心を持って見守られていることを把握できるように、毎年「回収率」「情報発信」「学校行事」についての関連項目を、定点的指標として注目してまいりました。

(1) 回収率について

本年度の回収率は生徒 95.0%、保護者 53.3%、地域 37.0%でした。保護者に対しては、昨年同様に複数回の丁寧な呼びかけが行われた上での結果との事。保護者回答全体から、学校公開への参加や学校・地域行事への協力に対して消極的である様子も伺えます。学校行事や活動へ参加が難しくなっているのでは、という意見も委員から出されました。「すぐる」を利用した回答方法については、行いやすくなったという声も多く、引き続き保護

者からの回答の変化に注力する必要があります。

(2) 情報発信について

ホームページ等による細やかな情報発信に力を入れられている点が、引き続き評価されます。ホームページが重要な発信媒体であることは保護者・地域にも浸透しているようです。

(3) 学校行事関連について

先に全体総括でも触れた通り、改築工事中で不便も多い中、学校行事に関し生徒・保護者共に肯定評価が大変高く、教職員の協働体制に対して保護者から高い評価が得られました。特に、面積がほぼ半分になった校庭で開催された体育大会に対しては、充実したその様子に委員からも感謝の声が出ていました。

[その他注目される事項について]

本年度から部活動に対し、地域の方や外部指導員によるサポートの導入や、活動の無い日が設けられる等、体制に変化がありました。教職員・生徒共に大変多忙な現代において、時間の使い方の改善を図る側面のある制度改革ですので、新しい時間の使い方として前向きに定着していくよう、今後も保護者・地域が連携し見守る必要があると感じます。専門指導者の指導には、保護者・生徒から評価の声も多いようです。良い実績は一部に留めず開かれたものとなるよう望みます。

3. 課題と改善提案

- 学校運営に対する透明性の担保と保護者に対する更なる理解の促進
- 地域との連携活動の一層の拡充
- 教職員間の課題の共有とその推進

4. まとめ

本年度の評価を通じて、学校は多様な教育活動と地域連携を推進し、生徒の成長につながる環境を整備していることが確認できました。来年度は本学校評価システムも新たな仕組みに変更され、本年度と同様のアンケートは終了されるとの事。継続的な発展に繋がる

よう、今後も学校と保護者・地域が協力しながら改善に取り組むことが期待されます。

以上が本委員会における本年度の評価内容となります。